

施工説明書

●製品概要

名称		レディオック フラッド スポラート LEDioc FLOOD SPOLART (LED丸形投光器)					
光源色		昼白色【5000K ±5%】		電球色【3000K ±5%】			
投光器タイプ	配光性能	投光器形式	演色評価数	投光器形式	演色評価数		
水銀ランプ 250W 相当	狭角タイプ	E30401N/N	Ra:70	E30401N/L	Ra:80		
	中角タイプ	E30401M/N		E30401M/L			
	広角タイプ	E30401W/N		E30401W/L			
水銀ランプ 400W 相当	狭角タイプ	E30401N/N		E30401N/L			
	中角タイプ	E30401M/N		E30401M/L			
	広角タイプ	E30401W/N		E30401W/L			
水銀ランプ 700W 相当	狭角タイプ	E30403N/N	E30403N/L				
	中角タイプ	E30403M/N	E30403M/L				
	広角タイプ	E30403W/N	E30403W/L				
水銀ランプ 1000W 相当	狭角タイプ	E30404N/N	E30404N/L				
	中角タイプ	E30404M/N	E30404M/L				
	広角タイプ	E30404W/N	E30404W/L				
防水性能		防雨形					
使用場所		人が容易に触れるおそれのない屋外の一般的な場所					
使用周囲温度		-5~35℃					
口出線		クロロブレンキャブタイヤケーブル 0.75m㎡-2芯 (白:プラス、黒:マイナス) 器具外500mm					
照射角度範囲		上向き	80°	下向き	60°	左右	180°

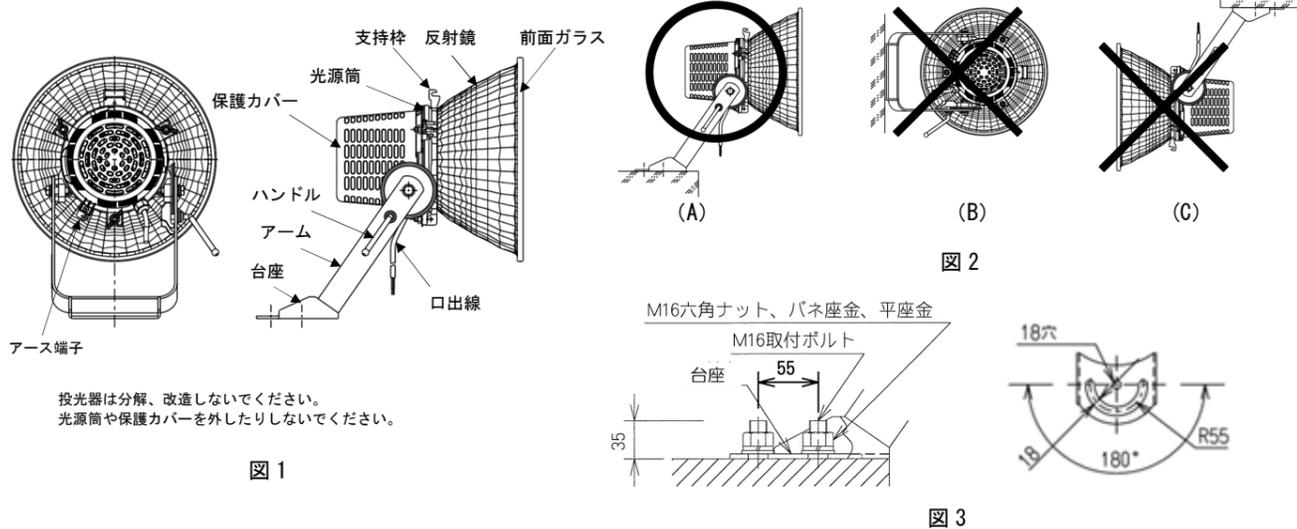
●この投光器には、専用のLED電源が必要です

- 必ず専用のLED電源とセットで使用してください。(上表の組み合わせで使用してください。)
※商用電源へ直接接続したり、HID用安定器二次側などで使用した場合、投光器(LED)の破損、発煙または点灯回路損傷のおそれがあります。
- 電源電圧は、LED電源に指定された電圧の範囲以内で使用してください。
- 投光器からLED電源までの管灯回路(電源二次側)配線長さは、50m以下で使用してください。長すぎますと始動性能や特性に影響が出ることがあります。
- 投光器には極性があります。LED電源および投光器の極性を合わせて配線してください。
- LED電源(電源二次側)と投光器を万一逆接続した場合は、電源を切ってから1分後、配線を正規に戻し、再度通電してください。

●ご使用上の注意

- 施工は、取扱説明書に従って正しく行ってください。施工に不備があると、火災・感電・落下によるケガの原因となることがあります。
- 投光器は、投光器重量に充分耐える強度を確保した構造物に取り付けてください。過度の締め付けによる投光器の変形に注意し確実に取付けてください。施工に不備があると、落下の原因となることがあります。
- 投光器の使用可能角度範囲(図3、図4)をご確認のうえ、構造物と干渉しないように投光器を取り付けてください。投光器が構造物に触れた状態で設置された場合、落下、火災の原因となることがあります。
- 投光器の設計風速は60m/sです。それ以上の場所で使用すると、落下による事故の原因となることがあります。
- 投光器は定置形器具です。それ以外の用途で使用すると、火災・感電・やけど・落下による事故の原因となることがあります。
- 山間部等、虫の発生が多量な場所で使用する場合は、虫の発生時期の清掃を細目に行ってください。腐食等の不具合の原因となることがあります。
- LEDを直視しないでください。目の障害の原因となることがあります。
- LEDは白熱灯や蛍光灯などの一般光源と比較して色ばらつきが大きいのが実情です。そのため個々LEDによる色味が異なる場合があります。また照射距離が近い場合は、照射面によって光むらや色むらが生じることがあります。
- 投光器の周囲温度が-5~35℃の範囲で使用してください。周囲温度が35℃を超える場所で使用した場合、温度上昇により火災、電源の故障、若しくはLEDの寿命が短くなる原因となることがあります。
- 冠水のおそれのある場所では使用しないでください。漏電、感電、故障の原因になります。
- 投光器の前面ガラスは交換ができませんので、キズなどをつけないでください。破損、防水不良、照度低下の原因となることがあります。また亀裂の入った前面ガラスは使用しないでください。
- 投光器は分解、改造しないでください。光源筒や保護カバーを外したりしないでください。火災・感電・落下・破損の原因となることがあります。
- 投光器は掘り込まれた狭い場所や筒に囲まれた風通しの悪い場所には取付しないでください。火災の原因となることがあります。
- 被照射面との距離は、80cm以上離して施工してください。被照射物の変色・変形の原因となります。
- 投光器全体や一部及び前面部に、材質を問わず、覆ったりかぶせたりしないでください。特に、前面ガラス部をフィルタで覆ったり、かぶせたりしないでください。火災・感電・落下・破損・変形の原因となることがあります。

●各部の名称 (図は一部省略抽象化してあります。)



●投光器の取付け

- 投光器は、必ず口出線が図2(A)のように下側になるように取付けてください。
取付けに不備がある場合、浸水による絶縁不良やランプ不点の原因となることがあります。
- 投光器は、構造物の取付面に図3のように取付ボルトM16を55mm間隔で2本設置し、投光器の台座の穴に挿入して、取付ボルト各々に平座金、ばね座金、六角ナットを入れ締付推奨トルク94~108N・mで確実に締付けてください。
締付けが不完全な場合、投光器の落下による事故の原因となることがあります。
- 投光器は、図4の照射角度範囲内でご使用ください。
照射方向を下向きにする場合は構造物と取付台との位置関係を図4のようにして反射鏡が構造物に触れないように設置してください。
- ハンドルを緩め照射角度を決めましたら、ガタツキ、緩みがないように確実にハンドルを締めてください。

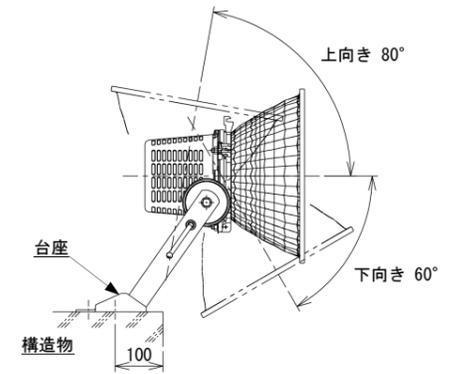


図4

●電源線の接続

- LED電源の投光器側配線は、600V二種EPゴム絶縁クロロブレンキャブタイヤケーブルと同等以上の性能をもつケーブルを使用し、図5のように極性を合わせ、確実に結線し絶縁処理を行ってください。
管灯回路(電源二次側)配線長さは、50m以下で使用してください。
口出線の接続は、電気設備技術基準の省令第7条及び同解釈第12条に従ってください。(具体的な接続方法: 内線規程1335-7参照)
- LED電源の投光器側配線と投光器のケーブルを接続する際、ケーブルのシースと2心の電線末端処理を自己融着テープなどにより確実に行ってください。不完全な場合、ケーブルのシース内を通して投光器内に浸水することがあります。
絶縁処理は導体部分のみではなくシース(外被)部も含めて行ってください。(図6)不十分な場合、電線からの浸水による絶縁不良や、ランプ不点の原因となることがあります。
- 光源筒の外側にあるアース端子を利用して、D種接地工事を行ってください。
- 結線が終わりましたら、投光器側の配線ケーブルは必要な長さを確保して、アームに結束バンドなどで固定してください。

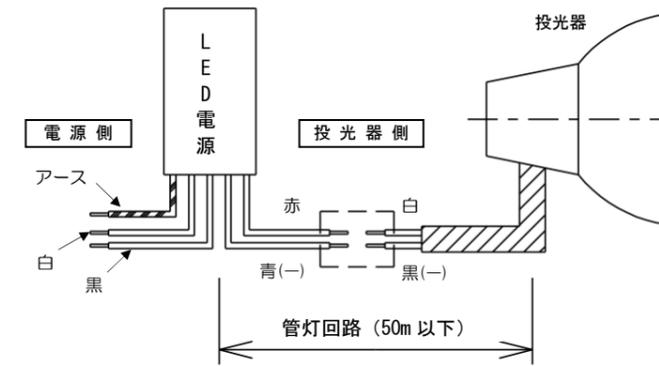


図5

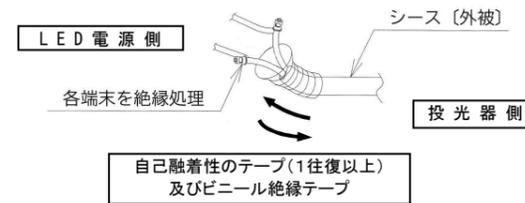


図6

自己融着性のテープにより各端末を絶縁処理した後に、投光器側口出し線のシース(外被)部から、電源線側のシース部(外被)まで1往復以上テーピングし、さらにビニール絶縁テープを巻き、絶縁および浸水対策をおこなってください。

※ご注意

商用電源へ直接接続したり、HID用安定器二次側などで使用した場合、投光器(LED)の破損、発煙または点灯回路損傷のおそれがあります。